

## 第4回 アンハードノート・ピアノパラ フェスティヴァル in New York TOKIO Sakoda

五体満足という言葉があります。

一時これに“不”の字を加えベストセラーになった本が有りました。著者の屈託のない明るい書きぶりは、障害に対する見方を大きく変えた素晴らしい読み物でした。

又昨年亡くなった宇宙物理学者のステイブン W, ホーキング博士は、「世間の人は兎角話し言葉に不自由があると、知的にも問題があると見がちだね」といっていました。

彼は現代宇宙物理学者として亡くなるまで現代のトップランナーでした。

又、あの名曲「第9」を 障害者が作曲した作品であるから唄うという人はいない。

作品が完成して初めてウイーンで演奏されたとき、総立ちでブラヴォーの観客の賛辞が聞えない、そして「ボート」を立てているベートーベンを見かねたアルトの歌手がソーツと手を取って、後ろを向かせて、初めて彼は成功したということが分かったという。

私は2013年秋に第3回アンハードノート・ピアノパラ、ウイーン大会を開催した時、いつものように世界中からやって来た挑戦者たちへの課題曲に、この曲のテーマ「An die Freude (喜びの歌)」を出題しました。

それぞれのお国ぶり、トルコ風ありアジア風あり、エジプト風、メキシコ風、ある中で、ただ一人ドイツの代表の音大生、オルガ・ヴィットハウアー (Olga Witthauer) さんの演奏には感心しました。

彼女は脊髄の障害で身長は1メートル、特製の電動車椅子、お父様 手造りの補助ペダル、彼女は左手だけであの終楽章「合唱」を弾き始めました。

片手でカバーできない部分は、前もってカセットに自分で演奏を録音してきました。

始まりのバリトンがソロで歌う部分、あるいはこの曲の最も大切な部分「Alle Menschen werden Brüder ..すべての人が兄弟となる..」の深い思い入れのこもったタッチはさすがドイツ人だと思いました。

今度のニューヨーク大会もお互い再会を楽しみにしていました。

さて、ところがもう間際になってから「今回は参加できそうにない、」とメールが入りました。

驚いて問い合わせたら、「実はこの8月に結婚した、赤ちゃんが出来たようで、どうやらその頃はお医者さんが飛行機に長時間乗るのは駄目といっている、」とのこと、

ご主人も教会のオルガニストで同じく車いすとか。音楽を通して様々な仲間が増えていくことは素晴らしいことだとお祝いを伝えました。

第2回2009年バンクーバー大会の時、私たちは函館の「ミトコンドリア症候群」という難病のお嬢さんで、奥本涼風さんという、寝たきりのお嬢さんの演奏を9時間の時差を乗り越えて演奏参加に成功させたことがあります。世界で初めての試みでしたから、わざわざ日本からエンジニアがカナダにやってきて、3日間慎重にテストをし、天井から下げられた大スクリーンを使って「コンバンワー、オハヨウゴザイマス。」とあいさつをしながら演

奏を披露したことがありました。

今回のニューヨーク大会でも彼女がなんと**成人式**を迎えた、ということでプログラムのなかに映像参加のコーナーを設けて、同じような症状の徳島文理大学の音楽科卒でピアニストの森兼祥子さんと一緒に映像参加しました。

前回と違い今回は携帯を使って簡単にそれもきれいな画像が送れるのに時代の進歩を感じました。

ただ「参加することに意義がある」とする、オリンピックの創始者たちの思い入れと整合性をどうするか、これからの問題でしょう。

皆さんは既にご承知でしょうが、こうしたインターバルの4年間は、ここに優秀な子がいると聞いたら何処へでも出掛けていき、又アンハードノートの意味を説明し、ただ単に障害者がパフォーマンスするから、だけではなく、ピアノ音楽を通して成長し将来的にはユニークなプロ、ふさわしいギャラを得られる音楽家になってほしいと呼びかけてきました。

お気づきでしょうか。最近では結構様々なイベントや テレビなどで障害者問題が取り上げられる機会が増えています。おそらく来年のオリンピック、パラリンピックの盛り上げに乗ったものでしょう。ありがたいことだと思います。

ただ気を付けなくてはならないのは、どうしても表に障害が出過ぎるところでしょう。

これではあたかもこれが「印籠」になりかねません。**一件落着**では困るのです。初めから勝負のついた試合と同じで、そのうち飽きられてしまいます。

中にはうれしいことに、わずかですが集中力のある子供も出てきました。特に海外の子供の盛り上がりは素晴らしい！ 本気度の違いでしょう。

特に昨年12月1+2+3日の3日間、約束どおり、ニューヨークで開催した「第4回アンハードノート・ピアノパラ・ニューヨーク大会」は、それはそれは素晴らしいものでした。

トップクラスの実力は健常者以上といっても過言ではありません。やっそここまで来たかというところでしょう。

皆様に自信をもってご披露できるのが嬉しいです。

ところで今回のこのニューヨーク大会、準備はとても大変でした。海外への呼びかけは、問題は全くありません。この4年間の修業期間の選手たちの熱意はすさまじいほどでした。ただ気になるのは日本サイドの姿勢でしょう。

かなり情報が広がったことであろうかと思いますが、少し新鮮味が薄まってきているように感じられます。

もっと問題は、公的な対応です。

此のピアノパラも、2005年横浜で第1回がひらかれたとき、初めてのことであり、又新鮮な驚きもあり、話題になりました。

そこで、ちょっとした仲間づくりが始まって、そこそこの人気取りで満足するような雰囲気

気も出始めてきています。

又、中には自分だけの活動を中心にする人も出てきているようです。

もちろんこれは私も望んできたものですから、歓迎するべきでしょう。

ただ気になるのは、音楽の中身です。

多くの人々は本物の音楽を聞きたいのです。それらは豊富な音楽的な体験、あらゆる国際的なセンス、幅広い新しい見聞からくる感覚から育ちます。経験が作り出すものです。

モーツァルトのお父さんはそれをよく知っていました。幼い子供の天分育成の為、当時の第1級の音楽家の門戸を訪ね、又支援していただける貴族の前で積極的に演奏をさせています。

これは音楽の形成には気品が大切で、まさにヨーロッパの伝統が作り上げた「ノーブレス・オブリージェ」が磨き上げた教養を身につけさせるためでした。

さてところが、これはまさに現実的で下世話な話で恐縮ですが、最近は基金集めが困難になってきたことです。

当初協力的だった仲間たちも10年もたつと、それなりに年を取ります。あるいは先にあの世に行きました。又スポンサーの関心も流動的で流行に弱いところもあります。

半面、さすが日本だ！文化芸術立国家だ！、と、この運動を聞きつけて賛同して来る国々も、今では25カ国を超えます。多分旅費滞在費補助は大きなカンフル剤になっているでしょう。

当然かかる経費は倍増です。

しかし、障害者に対する感覚もムード先行は変わらずです。

東京都もオリンピック主催権を得た。しかし、どうやらオリンピックはスポーツだけではだめで、文化プロも必要らしい。そこで「東京アーツカウンシル」という潤沢な特別予算を準備した。外務省の国際交流基金も申請を薦めている。当然私も応募し期待しましたが、驚いたことにどちらもゼロ回答。

“え？障害者のピアノ演奏？” “オリンピックに向けて都民になんも見返りが無い” …日本の伝統文化の宣伝効果が期待できない” “企業のイメージアップ” “に繋がらない。”

結局公的支援の1銭もない中で、開催に走らなければならなかった。

今までチャンスさえなかった自分たちの為に作られた運動。世界中の子供たちを励まし、又周りの羨望の中で、夢に胸を膨らまして練習に励み、やる気十分のピアニスト達の期待を裏切らないために、私は知る限りの、それこそちょっとでも関心をお持ちいただけそうな方がたのところへ、日夜頭を下げて回りました。

一番効果があるのは、実際の選手たちの演奏をお聞きいただくことだからと、代表たちのデモコンサートをたびたび開催したのもそのためでした。

嬉しいことにこのコンサートも、度重なるごとに注目を浴び、さらに代表出演者の集中力も、高まってくるのが分かりました。

しかしそれでもコンサートの性格上そんなに収入が挙がるものでも無い、止む負えず、ぎりぎりになって自分のリサイタルを「チャリティーコンサート」としてやってみる始末でした。

以前、2007年の秋でしたか、「ピアノパラリンピック、デモンストレーションコンサート」として当時の国連ハマーショルドホール、さらにカーネギーホールで「ピアノパラリンピック横浜大会のメダリストによるコンサート」を開催したことがあります。

此のとき国連の「障害者の日」＝毎年12月3日」のセレモニーのひとつで、世界中から集まった国々の厚生福祉関係者の前で行ったデモンストレーションコンサートの大成功が、バンクーバー大会の成功につながったのを思い出し、又こうしたイベントの中に組み込んで頂ければ経費も低く抑えられることから、当時の国連でお世話になった方々を訪ねて、わたしたちの今後の願い「国連の平和活動の一員として、ピアノパラ運動も活動を模索していく」ことなどを話し合ってきました。

しかし結論として、今回は国連でのコンサートはうまくいきませんでした。

理由は、大改装の為コンサートホールや設備は撤去したこと。敢えて開催するならばピアノレンタルや、一時的改装費用に3万ドルの自己負担が必要であること。参加者に国連参加国以外を認めないこと。テロ規制に協力すること。

断念を迫られたのがコンサートの1月半前。これからはまさに戦場のようでした。

昼夜なしのメール交信。国連に代わる、国際大会に相応しい会場探し、数百名の人が集まるイベント開催についての当局の許認可。

もちろんこの私たちの「アンハードノート・ピアノパラ」運動に賭ける熱意と、ニューヨークで50年以上にわたる音楽家育成事業の老舗としてのNEW HERITAGE THEATRE GROUPE 社長 Voza River 様、阿部克哉さまの理解と協力がなければとっくに消滅していたでしょう。

この5年10年の長きに渉りこの日の為に、音楽が好きだから、自分たちもここに生きているのを認めてほしいから、心から訴えたいものがあるから、…と懸命にわき目もふらず演奏を聞かせてくれた世界中のピアニスト諸君。今までで一番素晴らしい演奏を聞かせてくれた素朴な人たちの勝利のコンサートだった。

いや、まだまだ終わったわけではない。

この9月準備中の「第4回・アンハードノート・ピアノパラ in NewYork」メダリスト紹介コンサート、」で選ばれた君たちの演奏を聞きたいと楽しみにしている日本の子供達、音楽家、理解者、応援者、VIPの前で、あの時の名演奏を再現してくれたまえ。

「アンハードノート・ピアノパラとは何か?をもっともっと世界中に広げていこう！」

---

2019/3

アンハードノート・ピアノパラ委員会では、以下のメダリストたちと介助 1 名の費用の準備のため、募金をお願いしています。クラウドファンディングにも取り組んでいます。この運動に関心をお持ちの方、もっと詳しいことをお知りになりたい方はご遠慮なくお問い合わせください。

特定非営利活動法人・アンハードノート・ピアノパラ委員会  
〒112-0005 東京都文京区水道 2 丁目 11 番 5 号・明日香ビル 1 階、  
秘書室・八木下章子、Tel:080-5031-4903, Fax: 03-6760-4042  
e-mail:unheardnotespiano@gmail.com  
<http://www.cipfd.com/jpn/index.html>

① International winners

+Mr. Lee Shang Hsuan (Gold General/ Taipei) +Mr.David Gonzalez(Gold,Creative Mexico) +Mr Steven Tanus (Gold Visual Impairments、/Indonesia)) +, Mr,Davide Santacolomba(Gold, Hearing Impairment/Italy)+Mr.Yung-Kai Ku(Gold ,Developmental Disabilities/Taipei),+ Mr,Masataka Ohta((Silver,, General/Japan) + Mr, Islam Kano (Silver Mental Retardation/Egypt) +Miss Annamaria Stefania Nastase ( Silver, Hearing Impairment/ Rumania) +Miss, Ruiko Komami( Silver, Hearing Impairment/ Japan)+Mr. Sangheon Kim(SilverVisual Impairment/Korea)

② Japanese Members

Mr.Ryousei Hashizume (Bronz, Developmental disabilities/ Japan)

他